

[雑誌]

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
林恒美、中島孝、福原信義	マシヤド・ジョセフ病における臨床症状と123I-IMP SPECT所見の評価について	臨床神経学	41	574-581	2001
Fukutake T, Kamitukasa I, Arai K, Hattori T, Nakajima T	A patient homozygous for the SCA6 gene with retinitis pigmentosa.	Clin Genet	61(5)	375-379	2002
亀井啓史、中島孝、福原信義	錐体外路系疾患における脳血流SPECTの統計学的解析による検討	脳と神経	54(8)	667-672	2002
中島孝	脊髄小脳変性症のクリニカルパスにむけて	医療	56(7)	420-422	2002
Koide T, Nakajima T, Makifuchi T, Nobuyoshi F	Systemic mastocytosis and recurrent anaphylactic shock	The Lancet	Vol.359,9323	p2084	2002
Koide T, Ohtake H, Nakajima T, Furukawa H, Sakai K, Kamei H, Makifuchi T, Nobuyoshi F	A patient with dementia with Lewy bodies and codon 232 mutation of PRNP	Neurology	59	1619-1621	2002
袖山千恵子、村松林子、平野美鈴、二ノ宮正、山岸恵美子、山岸とし江、黒崎みや子、北沢真喜子、小出隆司、中島孝、福原信義	プリオン遺伝子コドン232変異を持つ痴呆患者の看護と在宅指導についての経験	医療	56(11)	664-667	2002
Hayakawa Y, Nakajima T, Takagi M, Fukuhara N, Abe H	Human cerebellar activation in relation to saccadic eye movements: an fMRI study	Ophthalmologica	216	399-405	2002
Nemoto H, Toda H, Nakajima T, Hosokawa S, Okada Y, Ymamaoto K, Horicuchi R, Endo K, Masahiko M, Goto, F	Fluvoxamine modulates pain sensation and affective processing of pain in human brain	NeuroReport			in press
Nakajima T	筋萎縮性側索硬化症患者に対するQoL向上への取り組み	神経内科治療学		1-14	2003.3

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
白崎弘恵、石田千穂、中島 孝、亀井啓史、小出隆司、福原信義	音声解析を用いた脊髄小脳変性症の定量的機能評価法について－Machado-Joseph病におけるtaltirelin hydrateの効果－	臨床神経学			印刷中
Sakuraba T, Hatanaka Y, Ito M, Mizuno Y	Establishment and Preservation of Communication Method of ALS Patients in Total Locked-in Stage(Usefulness of Electroencephalography Switch = MCTOS)	Amyotrophic Lateral Sclerosis	Vol.3 Supplement 2	116-117	2002
伊藤道哉	終末期におけるスピリチュアルな領域と宗教－研究動向をもとに－	緩和医療学	4 (1)	13-21	2002
伊藤道哉	クリティカル・パスとチーム医療	Diabetes Frontier	13(4)	458-462	2002
伊藤道哉	疫学研究の倫理指針	クレコンレポート	24	1-7	2002
伊藤道哉	看護・介護現場で求められる情報開示とは	臨床老年看護	9 (4)	71-76	2002
伊藤道哉, 山崎壮一郎, 濃沼信夫, 石川秀樹	QOLからみたAPC遺伝子検査のインパクト	病院管理	39, Suppl	194	2002
小倉朗子	三鷹市における難病等在宅患者支援事業の機能と地域ケア・システムの課題に関する研究	日本プライマリケア学会 第25回日本プライマリ・ケア学会 プログラム集	第25回日本プライマリ・ケア学会 プログラム集	38	2002
谷口亮一、若林研司、野村幸史、小倉朗子、打林友子、吉村香織、平磯幸子	神経難病患者支援地域ケアシステムの構築 東京都三鷹市における試み	第5回 日本在宅医学会大会	プログラム・抄録集	64	2003
Kuno S	Association between dopamine transporter gene polymorphism And susceptibility To Parkinson's disease in Japan.	Move Disord	17	831-832	2002
Kuno S	Contribution of interleukin (IL) -1b gene polymorphisms in multiple system atrophy.	Move Disord	17	808-811	2002

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kuno S	The novel Catecholaminergic and serotonergic Activity enhancer R-(·)-1-(benzofuran-2-yl)-2-propylaminopentane up-regulates neurotrophic factors synthesis in mouse astrocytes	Neuroscience Letters	328	205-208	2002
Kuno S	Relationship between urinary symptoms and disease-related parameters in multiple sclerosis.	J Neurol	249	1010-1015	2002
久野 貞子	進行期パーキンソン病患者の治療	Medicament News	(2002.7.25)	21	2002
久野 貞子	まずドパミン・アゴニスト Lドーパはなるべく少量に(シボジウムパーキンソン病を学び直す・薬物療法)	Nikkei Medical	5月号	119-122	2002
久野 貞子	治療アルゴリズムの功罪	BRAIN MEDICAL	14(2)	35-38	2002.6
久野 貞子	進行期パーキンソン病患者の治療	Progress in Medicine	22(11)	356-364	2002.11
久野 貞子	パーキンソン病のリハビリテーション実践マニュアル	Monthly Book MEDICAL REHABILITATION	No21	29-35	2002
久野 貞子	高齢者パーキンソン病の実践的薬物治療－自律神経症状と対策	老年医学	40(9)	1233-1236	2002
久野 貞子	進行したパーキンソン病のマネジメント	日本医事新報	No 4093	92-93	2002
久野 貞子	第9回カテコールアミンと神経疾患研究会	Progress In Medicine	Vol.22 No.1	231-232	2002
後藤清恵	難病患者さんの心理とリハビリテーション	月刊雑誌 難病と在宅ケア	VOL.7 No.12	26-28	2002年3月号
後藤清恵	こころを支えるということ 臨床心理士の立場から	月刊雑誌 難病と在宅ケア	VOL.8 No.2	16-17	2002年5月号
後藤清恵	難病患者への心理的サポートグループ	保健婦雑誌	VOL.58 No.12	1060-1066	2002.12.10

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
後藤清恵	「ひきこもり」の本人・家族との心理面的アプローチ	家族療法研究	vol.17 No.2 10-12	10-12	2001.8
後藤清恵	特別論考 難病患者および家族の心理とその支援－サポートグループ導入の勧め－	生活教育	3月号		2003.2
佐野薫、 <u>近藤清彦</u>	在宅人工呼吸療法(HMV)におけるハイテク在宅医療機器の概要	輸液栄養(JJPEN)	24(8)	437-448	2002
近藤清彦	神経難病の在宅医療－勤務医の立場から	モダン・フィジシャン	22(5)	659-664	2002
久保裕男、 <u>近藤清彦</u>	鹿児島と八鹿の二大先進地域がメモリアル～難病ケアシステム構築の成果を確認～	難病と在宅ケア	8(6)	54-59	2002
難波玲子、今井尚志	ALS患者の緩和ケア	ターミナルケア	第12巻No.6	495-499	2002年
今井尚志、難波玲子	ALS診療ガイドラインと告知について	ターミナルケア	第12巻No.4	301-304	2002年
難波玲子	ALSの在宅支援	難病と在宅ケア	第8巻No.4	41-45	2002年
難波玲子	ALS医療・緩和医療の視点から	医療	第56巻No.6	350-351	2002年
児玉知子、園田至人、 <u>福永秀敏</u>	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の多面的評価	日本医事新報	4075	26～30	2002
福永秀敏	パーキンソン病患者のリハビリテーションと療養・看護	神経治療学	19	45～49	2002
福永秀敏	ALSのこれからの長期戦略	難病と在宅ケア	7	22～25	2002
福永秀敏	神経難病と訪問介護員	難病と在宅ケア	7	52～55	2002
小林量作、 <u>福原信義</u>	在宅神経難病患者のための住宅改造(21)、福祉用具。	難病と在宅ケア	7(10)	69-73	2002

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
高津由子、小林量作、 <u>福原信義</u>	在宅神経難病患者のための住宅改造(22)、住宅改修と福祉用具を利用するための社会資源。	難病と在宅ケア	7(11)	23-26	2002
<u>福原信義</u>	神経難病の生活の質(QOL)向上の工夫。	モダンフジシャン	22	665-669	2002
Date,H., Onodera,O., Tanaka,H., Iwabuchi,K., Uekawa,K., Igarashi,S., Koike,R., Hirioi,T., Yuasa,T., Awaya,Y., Sakai,T., Takahashi,T., Nagatomo,H., Sekijima,Y., Kawabuchi,I., Takiyama,Y., Nishizawa,M., <u>Fukuhara,N.</u> , Saito,K., Sugano,S., Tsuji,S.	Early-onset ataxia with ocular motor apraxia and hypoalbuminemia is caused by mutations in a new HIT superfamily gene.	Nature Genet	29	184-188	2002
Koide,T., Nakajima,T., Makifuchi,T., <u>Fukuhara,N.</u>	Systemic mastocytosis and recurrent anaplastic shock.	Lancet	459(9323)	2084	2002
小林量作、 <u>福原信義</u>	在宅神経難病患者のための住宅改造(最終回)、住環境整備の目的とその効果。	難病と在宅ケア	7(12)	54-58	2002
卷淵隆夫、 <u>福原信義</u>	眼球運動失行と低アルブミン血症を伴う早発型脊髄小脳失調症の病理。	神経内科	57	119-124	2002

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Arai,A.,Tanaka, K., Ikeuchi,T., Igarashi,S., Kobayashi,H., Asaka T., Date,H., Saito, M., Tanaka,H., Kawasaki,S., Uyama,E., Mizusawa,H., Fukuhara,N., Tsuji,S.	A novel mutation in the UDP-N acetylglucosamine 2- epimerase/N- acetylmannosamine kinase gene and a strong linkage disequilibrium in Japanese pedigrees with distal myopathy woith rimmed vacuoles (Nonaka distal myopathy).	Ann.Neurol	52	516-519	2002
Koide,T., Ohtake,H., Nakajima,T., Furukawa,H., Sakai,K., Kamei,H., Makifuchi,T., Fukuhara,N.	A patient with dementia with Lewy bodies and codon 232 mutation of PRNP.	Neurology	59	1619-1621	2002
袖山千恵子、村松林 子、平野美鈴、二ノ宮 正、山岸恵美子、山 石とし江、黒崎みや 子、北沢真喜子、小出 隆司、中島孝、福原信 義	プリオン遺伝子コドン 232変位を持つ痴呆患者 の看護と在宅指導につ いての経験。	医療	56	664-667	2002
Nagata H., Mizushima H., Tanaka H	Concept and prototype of protein-ligand docking simulator with force feedback technology.	Bioinformatics	Vol.18 No.1	p.140-146	2002
Mizushima H, Ichikawa H, Ohki M.	ANALYSYS TOOL FOR FINDING TRANSCRIPTION REGULATORY ELEMENTS, USING TRANSCRIPTION FACTOR DATA BASE (TFDB).	Proceedings of the Third International Conference on Bioinformatics of Genome Regulation and Structure.	Vol.1	p.37-39	2002
辰巳 治之、明石 浩 史、水島 洋、秋山 昌範、戸倉 一、田中 博	次世代のネットワーク 技術：IPv6の医療応用 の検討のために	医療とコンピュー タ	Vol.13 No.1	p.25-33	2002

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
水島 洋	バイオインフォマティクスの創薬への応用	ヒューマンサイエンス	Vol.13 No.4	p.14-17	2002
辰巳 治之、戸倉一、明石 浩史、大西浩文、秋山 昌範、水島 洋、永田 宏、田中 博	IPv6の医療への展開	インナービジョン	Vol.17 No.7	p.34-40	2002
水島 洋	医療情報ネットワーク構築と医療情報とゲノム情報の融合	新医療	Vol.28 No8,	p.133-135	2002
水島 洋	ゲノム情報と医療情報	医療とコンピュータ	Vol.13 No.12	p.6-10	2002
水島 洋	転写制御機構解析のためのバイオインフォマティクス	ゲノム医学	Vol.3 No.1	p73-79	2003
辰巳 治之、戸倉一、明石 浩史、大西浩文、秋山 昌範、水島 洋、永田宏、穴水弘光、田中 博	情報革命による医療ルネサンス	新医療			in Press
宮坂道夫	資源化の正義と物語的正義 -生命倫理学における正義論についての試論-	生命倫理	13号	168-174	2002
宮坂道夫	医療倫理学とは何か -「オープンネス」をキーワードとして-	日本放射線技師会雑誌	49(4)	322-327	2002
宮坂道夫	NBM (Narrative Based Medicine)	歯界展望	100(3)	610-611	2002
宮坂道夫	看護倫理への招待 -医療倫理学とは何か？	看護学生	50(1)	64-65	2002
宮坂道夫	看護倫理への招待 -医療倫理学の「思考の道具」(その1)	看護学生	50(2)	60-61	2002
宮坂道夫	看護倫理への招待 -医療倫理学の「思考の道具」(その2)	看護学生	50(3)	64-65	2002
宮坂道夫	看護倫理への招待 -医療倫理学の「思考の道具」(その3)	看護学生	50(4)	64-65	2002

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
宮坂道夫	看護倫理への招待 -死 についての問題 (その 1)	看護学生	50(10)	64-65	2003
宮坂道夫	看護倫理への招待 -死 についての問題 (その 2)	看護学生	50(11)	64-65	2003
宮坂道夫	看護倫理への招待 -死 についての問題 (その 3)	看護学生	50(12)	60-61	2003
山内豊明	バイタルサインの意味 するもの フィジカルア セスメントとの関連で	Nursing Today	16巻12号	140-147	2001
三笠里香, <u>山内豊明</u>	血圧測定時における手 技に関する実証的研究 水銀血圧計の位置につ いて	看護教育	42巻11号	998-1001	2001
<u>Yamauchi, T.</u>	Correlation between work experiences and competencies for physical assessment in Japan.	Nursing and Health Sciences	3巻4号	213-224	2001
三笠里香, 小松洋子, 中 井順子, <u>山内豊明</u>	訪問看護実践場面に必 要とされるフィジカル アセスメントについて の現状調査の試み	訪問と介護	7巻1号	47-53	2002
佐々木詩子, 近藤こず ゑ, <u>山内豊明</u>	事例で学ぶ高齢者の フィジカルアセスメン トの実践	老年看護	9巻3号	23-30	2002
山内豊明	諸外国における看護職 の医行為実施について	Nursing Today	17巻10号	39-41	2002
山内豊明	フィジカルアセスメン ト	ナースビーンズ	4巻10号	973-995	2002
山内豊明	フィジカルアセスメン トII	ナースビーンズ	4巻11号	1085-1107	2002
山内豊明	クリティカルシンキン グ アセスメント能力 向上の鍵	看護展望	27巻13号	1409	2002
豊浦保子	重度障害者であるALS 患者のセルフヘルプ活 動	保健の科学	vol.44	515-518	2002.7



20020743

以降 P.163－P.444までは雑誌/図書に掲載された論文となりますので、P.151－ P.161の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。

## V. 研究報告会プログラム

9:00 開会の辞

班長 中島 孝

9:05 厚生労働省挨拶

厚生労働省健康局疾病対策課

9:10~10:20

座長 中島 孝 (国立療養所犀潟病院)

1. インターネットによる情報提供による QOL の向上 — 一会合中継を中心に —

○水島 洋<sup>1</sup>、小川弘子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国立がんセンター研究所疾病ゲノムセンター、<sup>2</sup>国立療養所犀潟病院情報センター

指定発言：研究報告会のインターネット中継の実際と問題

○小川弘子

国立療養所犀潟病院情報センター

2. 携帯型意思伝達装置の有用性検討

○松尾光晴<sup>1</sup>、中島 孝<sup>2</sup>

<sup>1</sup>松下電器産業 (株)、<sup>2</sup>国立療養所犀潟病院神経内科

3. 神経疾患における遺伝子検査—患者・家族への心理・社会的影響と倫理的課題

○齋藤有紀子

北里大学医学部医学原論研究部門

4. ハンチントン病の遺伝負因をもつ人とその家族の心のプロセス

○後藤清恵<sup>1</sup>、福原信義<sup>2</sup>、中島 孝<sup>2</sup>、小林量作<sup>3</sup>

<sup>1</sup>新潟青陵女子短期大学、<sup>2</sup>国立療養所犀潟病院、<sup>3</sup>新潟医療福祉大学

5. QOL 向上に資する遺伝子検査ガイドラインの検討

— 生命保険をめぐる遺伝性難治疾患患者・家族の実態調査より —

○伊藤道哉<sup>1,2</sup>、濃沼信夫<sup>1</sup>、石川秀樹<sup>2,3</sup>、佐伯智子<sup>2,3</sup>、武藤香織<sup>4</sup>

<sup>1</sup>東北大学大学院医学系研究科医療管理学分野、<sup>2</sup>J-FAPP 研究グループ

<sup>3</sup>兵庫医科大学、<sup>4</sup>信州大学医学部保健学科

指定発言：遺伝性神経難病、ハンチントン病から見た現状と今後

○武藤香織

信州大学医学部保健学科

10:20~11:00

座長 伊藤道哉 (東北大学大学院医学系研究科)

6. 神経難病患者の QOL 向上における特定機能病院の役割：神経筋疾患診療におけるクリニカルパス

○熊本俊秀、三宮邦裕、上山秀嗣、藤本 伸、木村昭子、荒川竜樹、花岡拓也、中村憲一郎

大分医科大学医学部第三内科

7. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の療養者における療養行程モデル (その 1)

— 文献検討からの基準的行程モデルの作成 —

○川村佐和子<sup>1</sup>、真砂涼子<sup>1</sup>、本道和子<sup>1</sup>、小倉朗子<sup>2</sup>、牛込三和子<sup>3</sup>、水野優希<sup>1</sup>、木全真理<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東京都立保健科学大学、<sup>2</sup>(財) 東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所、<sup>3</sup>群馬大学

## 8. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者における療養行程モデル(その2)

### ーG県M市居住者事例の療養行程と基準的行程モデルとの比較ー

○牛込三和子<sup>1</sup>、友松幸子<sup>2</sup>、佐々木馨子<sup>1</sup>、松田千春<sup>1</sup>、新井明子<sup>1</sup>、小淵俊子<sup>1</sup>  
飯田苗恵<sup>3</sup>、岡本幸市<sup>1</sup>、小倉朗子<sup>4</sup>、川村佐和子<sup>5</sup>

<sup>1</sup>群馬大学医学部保健学科、<sup>2</sup>群馬県神経難病医療専門員、<sup>3</sup>群馬県立医療短期大学、  
<sup>4</sup>東京都神経科学総合研究所、<sup>5</sup>都立保健科学大学

## 9. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者における療養行程モデル(その3)

### ー東京都M市居住者事例の療養行程と基準的行程モデルとの比較ー

○小倉朗子<sup>1</sup>、打林友子<sup>2</sup>、山川葉子<sup>2</sup>、大口たず子<sup>2</sup>、谷口亮一<sup>3</sup>、若林研司<sup>3</sup>  
川村佐和子<sup>4</sup>、真砂涼子<sup>4</sup>、本道和子<sup>4</sup>、牛込三和子<sup>5</sup>

<sup>1</sup>東京都神経科学総合研究所、<sup>2</sup>東京都三鷹武蔵野保健所、<sup>3</sup>三鷹市医師会、<sup>4</sup>東京都立保健科学大学、<sup>5</sup>群馬大学

11:00~11:40

座長 今井尚志(国立療養所千葉東病院)

### 10. ALSの病名告知と心理支援:

#### (1) ALS患者のたどる心理的過程ー呼吸器装着についてー

湯浅龍彦、○森 朋子、川上純子、吉本佳預子  
国立精神・神経センター国府台病院神経内科

### 11. ALSのコミュニケーション障害:多様性とインフォームドコンセントの観点から

○加藤修一<sup>1</sup>、林 秀明<sup>1</sup>、川田明広<sup>1</sup>、清水俊夫<sup>1</sup>  
宮崎之男<sup>1</sup>、長尾雅裕<sup>1</sup>、小出玲爾<sup>1</sup>、田中勇次郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東京都立神経病院神経内科、<sup>2</sup>東京都立神経病院リハビリテーション科

### 12. ALS患者の在宅療養に向けた取り組み

#### ー患者の意思決定に基づいた関わりー

○松本祐子<sup>1</sup>、古賀千秋<sup>1</sup>、木村康子<sup>1</sup>、塩谷登喜<sup>1</sup>、久野貞子<sup>2</sup>、大江田知子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国立療養所宇多野病院看護部、<sup>2</sup>国立療養所宇多野病院臨床研究部・神経内科

### 13. 筋萎縮性側索硬化症患者の自立を目指した医療援助に関する研究

今井尚志、○栗原久美子、志津由三子、藤代祐子、大隅悦子  
国立療養所千葉東病院

11:40~12:10

座長 福原信義(国立療養所犀潟病院)

### 14. ALS患者の在宅サービスの利用状況からみる問題点と今後の課題(第1報)

○隅田好美<sup>1,3,5</sup>、豊浦保子<sup>1,3,4</sup>、水町真知子<sup>1,3</sup>、海野幸太郎<sup>2</sup>、小林智子<sup>1,3</sup>、黒田研二<sup>6</sup>

<sup>1</sup>日本ALS協会近畿ブロック、<sup>2</sup>日本ALS協会茨城県支部、<sup>3</sup>(有)エンパワーケアプラン研究所  
<sup>4</sup>梅花短期大学、<sup>5</sup>大阪府立大学大学院社会福祉学研究科、<sup>6</sup>大阪府立大学社会福祉学部

### 15. ALS患者の在宅サービスの利用状況からみる問題点と今後の課題(第2報)

○豊浦保子<sup>1,3,4</sup>、水町真知子<sup>1,3</sup>、海野幸太郎<sup>2</sup>、小林智子<sup>1,2</sup>、隅田好美<sup>1,3,5</sup>、黒田研二<sup>6</sup>

<sup>1</sup>日本ALS協会近畿ブロック、<sup>2</sup>日本ALS協会茨城県支部、<sup>3</sup>(有)エンパワーケアプラン研究所  
<sup>4</sup>梅花短期大学、<sup>5</sup>大阪府立大学大学院社会福祉学研究科、<sup>6</sup>大阪府立大学社会福祉学部

### 16. 難病患者への保健所の支援についての一考察

#### ー特定疾患受給者の状況と難病事業の取り組みをふまえてー

福永秀敏<sup>1</sup>、○今村 恵<sup>2</sup>、川元孝久<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国立療養所南九州病院、<sup>2</sup>鹿児島県加治木保健所

## 17. ALS 患者・家族をめぐる臨床倫理

○清水哲郎<sup>1</sup>、武藤香織<sup>2</sup>、岩木三保<sup>3</sup>、玉井真理子<sup>2</sup><sup>1</sup>東北大学大学院文学研究科、<sup>2</sup>信州大学医学部保健学科、<sup>3</sup>福岡県難病医療連絡協議会

## 18. ハンチントン病の家庭介護をめぐる刑事事件から学ぶもの

○武藤香織<sup>1</sup>、宮岡由紀<sup>2</sup>、中島 孝<sup>3</sup><sup>1</sup>信州大学医学部保健学科、<sup>2</sup>日本ハンチントン病ネットワーク、<sup>3</sup>国立療養所犀潟病院神経内科

## 19. ALS 看護スタッフのメンタルヘルス

○藤井直樹、奥村廣子

国立療養所筑後病院

## 20. ALS 患者に対する医療・保健・福祉スタッフの関わりについての研究：

## 死亡 ALS 患者家族へのアンケートから

○高津由子<sup>1</sup>、浅井正子<sup>2</sup>、沖田慶子<sup>2</sup>、伊藤里江子<sup>2</sup>、平出美智子<sup>3</sup>、福原信義<sup>4</sup><sup>1</sup>国立療養所犀潟病院 MSW、<sup>2</sup>上越健康福祉環境事務所<sup>3</sup>新潟県立中央病院神経内科外来、<sup>4</sup>国立療養所犀潟病院神経内科

## 21. 在宅人工呼吸療法中の ALS 患者への音楽療法の意義

○近藤清彦<sup>1</sup>、木村百合香<sup>2</sup>、井上ひとみ<sup>3</sup>、山崎よし子<sup>3</sup>田村雅代<sup>4</sup>、濱田圭子<sup>5</sup>、畑中公子<sup>5</sup><sup>1</sup>公立八鹿病院神経内科、<sup>2</sup>公立八鹿病院音楽療法士、<sup>3</sup>公立八鹿病院看護部<sup>4</sup>兵庫県豊岡健康福祉事務所、<sup>5</sup>兵庫県柏原健康福祉事務所

## 22. 在宅人工呼吸療法中の患者を含む在宅神経難病患者の訪問音楽療法

近藤清彦<sup>1</sup>、○永野裕見子<sup>2</sup>、矢津 剛<sup>3</sup><sup>1</sup>公立八鹿病院神経内科、<sup>2</sup>医療法人矢津内科消化器科クリニック音楽療法士<sup>3</sup>医療法人矢津内科消化器科クリニック内科

## 23. ALS のための呼吸理学療法ガイドラインの作成

○小森哲夫<sup>1</sup>、笠原良雄<sup>2</sup>、道山典功<sup>2</sup>、出倉庸子<sup>2</sup><sup>1</sup>東京都立神経病院神経内科、<sup>2</sup>東京都立神経病院リハビリテーション科

## 24. ALS 患者の人工呼吸療法における吸引カテーテル管理

## ー閉鎖式気管内吸引法による吸引の検討ー

近藤清彦<sup>1</sup>、○田中友美<sup>2</sup>、田淵かおり<sup>2</sup>、太田 都<sup>2</sup>、西谷真紀<sup>2</sup>、北山通朗<sup>1</sup><sup>1</sup>公立八鹿病院神経内科、<sup>2</sup>公立八鹿病院看護部

## 25. ALS 患者のトイレ排泄の検討

## ー介護支援専門員としての援助からー

福永秀敏<sup>1</sup>、○上蘭妙子<sup>2</sup>、今村 恵<sup>3</sup>、児玉知子<sup>1</sup><sup>1</sup>国立療養所南九州病院、<sup>2</sup>始良郡医師会居宅介護支援事業所、<sup>3</sup>鹿児島県加治木保健所

15:30~16:10

座長 川村佐和子 (東京都立保健科学大学)

26. 難病訪問看護に必要とされるアセスメント技能について

○山内豊明

名古屋大学医学部基礎看護学講座

27. 神経難病病棟におけるパーキンソン病のADL評価表作成の試み

○小山信子、小林静子、内山りか、澁谷秀之、立川八重子、山岸とし江

北沢真喜子、福原信義、中島 孝

国立療養所犀潟病院神経内科

28. パーキンソン病のQOLに占める医療・経済問題

ーパーキンソン病患者へのアンケート調査の解析

○久野貞子<sup>1</sup>、水田英二<sup>2</sup>、山崎俊三<sup>2</sup>、伊藤道哉<sup>3</sup>、清徳保雄<sup>4</sup>

<sup>1</sup>国立療養所宇多野病院臨床研究部、<sup>2</sup>国立療養所宇多野病院神経内科

<sup>3</sup>東北大学大学院医学系研究科、<sup>4</sup>全国パーキンソン病友の会

29. 神経難病デイサービスを試みてーデイケアの紹介とアンケート調査よりー

○羽崎恵子<sup>2</sup>、近藤隆春<sup>2</sup>、猪爪陽子<sup>2</sup>、小山英央<sup>2</sup>、朝日達也<sup>2</sup>、玉虫俊哉<sup>2</sup>

小林量作<sup>3</sup>、滝沢いつ子<sup>4</sup>、坂井健二<sup>1</sup>、会田 泉<sup>1</sup>、中島 孝<sup>1</sup>、福原信義<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立療養所犀潟病院神経内科、<sup>2</sup>国立療養所犀潟病院訓練棟、

<sup>3</sup>新潟医療福祉大学理学療法学科、<sup>4</sup>国立療養所犀潟病院外来

16:10~16:50

座長 堀川 楊 (医療法人社団朋有会 堀川内科・神経内科医院)

30. 神経難病と生命倫理の諸原理

○宮坂道夫

新潟大学医学部保健学科

31. 神経難病の終末期医療と療養の場所

○堀川 楊

医療法人社団朋有会堀川内科・神経内科医院

32. ALSの緩和ケアー強オピオイド投与法の検討ー

○難波玲子、濱川慶之\*、鎌田 寛

国立療養所南岡山病院神経内科 (\*現在 岡山大学神経内科)

33. 神経難病とがん領域における緩和ケアの比較

ータイムスタディ法を用いた看護時間量の調査ー

石上節子<sup>1</sup>、○三浦るみ<sup>1</sup>、遠藤慶子<sup>2</sup>、高橋文子<sup>2</sup>、伊藤道哉<sup>3</sup>

<sup>1</sup>東北大学医学部附属病院新西17階病棟 (緩和ケアセンター)

<sup>2</sup>東北大学医学部附属病院新西11階病棟 (脳・神経病棟)

<sup>3</sup>東北大学大学院医学系研究科医療管理学分野

16:50~17:00 閉会の辞

班長 中島 孝

---

厚生労働科学研究費補助金  
厚生労働省特定疾患対策研究事業  
特定疾患の生活の質 (Quality of Life, QoL)  
の向上に資するケアの在り方に関する研究  
総括・分担研究報告書  
平成 15 年 3 月

主任研究者 中島 孝 国立療養所犀潟病院  
TEL : 025(534)-3131 (代)  
FAX : 025(534)-6734 (電話・ファックス兼用事務局連絡先)  
e-mail : nakajima@saigata-nh.go.jp  
〒949-3193 新潟県中頸城郡大潟町犀潟 468-1

印刷 深堀印刷  
新潟県上越市中央 2 丁目 9-14  
TEL(025)534-2041 (代)

---